

経営改善計画書(令和5年度～令和7年度)

団体名	公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館	様式2
現状と課題	・3年に及ぶコロナ禍により、乳幼児の利用も多い完全屋内施設として大きな打撃を受けた。 ・利用者数はR2年度の48,000人、R3年度56,000人、R4年度76,000人、R5年度93,000人と回復傾向にあるが、コロナ禍以前の年間120,000人まで完全に戻るかどうか、なお予測を許さない。 ・R7年度には開館30周年を迎えることから、記念の事業を実施したい。 ・イベント目的や子どもの遊び場としての訪問が多い一方で、展示の鑑賞を目的とした利用の割合は少ない。利用者は常に体験型展示の2階に集中しており、鑑賞型の展示を主とする1階と3階は一部を除き展示内容が主たる利用層である家族連れや子どもたちにとつて、印象的で親しみやすい内容になっていない可能性がある。H23年度の部分リニューアルからも相当期間が開いており、イベントだけでなく常設展で人を呼べる仕組みづくりが課題だと考えている。	
経営方針 (令和7年度目標)	・童謡・唱歌とおもちゃのミュージアムとして、特色ある地域文化の発展に尽くす。 ・鳥取世界おもちゃ館設置の基本理念に則り、管理運営に関する協定書及び管理運営業務仕様書等に基づくとともに、長年の指定管理実績の中で培ったノウハウを活かして公共施設として適切な管理運営を行う。 ・鳥取世界おもちゃ館と鳥取県立童謡館の複合文化施設として、財団が一括管理する利点を活かし、一体的かつ効率的な事業の推進、施設の維持管理を行う。	

視点	7年度目標 (期間内の 最終目標)	年度	実行計画		実績		分析、評価コメント（経営改善効果）	市担当課コメント
			取組内容	目標値	取組状況	実績値		
経営改革 (財務面での長期見通し)	効率的な運営及び入館の促進	5年度		102,000人	目標だったコロナ禍前120,000人の85%102,000人には届かなかったものの、前年実績の76,585人の122%となる93,264人の利用者があった。	93,264人	コロナ禍の影響によりR2年度に48,000人で底を打った利用者数は、R3年度には56,000人、R4年度には76,000人、R5年度に93,000人と順調に回復しつつある。	新型コロナウイルスから完全に回復できていないものの、利用者は順調に回復傾向にあるため、引き続き、幅広い世代に魅力あるイベントや企画展を実施していただきたい。
			・年間利用者が数、コロナ禍以前の水準まで回復するよう取り組みます。（R5年度85%、R6年度100%）	300人	前年度末に288人だった年パス会員数は、R5年8月下旬に開催したNHK教育「おかあさんといっしょ」の先代のうたのおねえさんのコンサートを機に大きく増え、年度末の最終的な会員数は約1.5倍増の448人となった。	448人	コンサート開催直前の7月8日には、年パスの入会者数は100人を超えた。魅力的なイベントや展示の実施により、今後も年パス会員の増加を図りたい。	地元出身者に関連した事業やアニメ等幅広い年代の方に多種多様な事業を実施された。集客が見込める従来からある企画だけではなく、毎年新しい事業にチャレンジすることで、施設のファンを増やしていかれており、評価できる。
			・年間バス会員（一般2,500円、シニア1,500円）の増加に取り組みます。（R4年度末会員数288名）					
		6年度	・入館料収入が、コロナ禍以前の水準まで回復するよう取り組みます。（R4年度実績11,414,200円）	12,750千円	イベントの入場制限の撤廃等による入館者数の回復に伴い、入館料収入は対前年119%の13,610千円となり、目標を上回ることができた。	13,610千円	有料利用者数は、団体利用が2,177人(前年度759人)、外国人が821人(同250人)と、それぞれ約3倍になるなど回復が進んだ。	入館料収入が前年度と比較して増加し、団体客・インバウンドも含めて着実に回復基調にある。引き続き、幅広い世代に魅力あるイベントや企画展を実施していただきたい。また、地域の活性化につながる社会貢献活動として、中学生の職場体験、高校生や大学生の実習やボランティアの受け入れなど、若い世代にわらべ館を知ってもらうことで次世代育成にも貢献しており、今後も継続していただきたい。
				120,000人	前年までの回復基調を維持し、年明けの天候不順が一時的な押し下げ要因となったものの、最終的な年間利用者は前年度を9.3%上回る101,945人となった。令和7年3月には開館以来の累計利用者数が350万人を突破した。	101,945人	年間の利用者数は、コロナ禍以前のR元年度以来、実に5年ぶりとなる10万人台を回復した。	利用者は順調に回復傾向にある。コロナ禍前の目標12万人を目前にしており、引き続き多様な形でアイデアあるふれるイベントや展示を実施していただきたい。
				350人	年パスの入会者数は順調に伸び、令和7年3月末時点の会員数は464名となった。	464人	R6年度期中のすべての月において入会数は前年同月を上回った。月末ごとの平均会員数は387.5人から470.5人へと20%以上増加した。	毎月の入会会員数も順調に増えている。令和7年度は開館30周年のため、さらなる増加に期待したい。
				15,000千円	利用者数は増加したものの、入館料収入は13,294,100円と2.3%の微減となった。	13,294千円	バス旅行が減ったことによる団体利用(20人以上)の減少(2,177→1,221人)が響いた。団体客はほぼ半減した一方で、外国人利用は821人から1,020人へと増加傾向が続いている。	コロナ禍後は団体旅行が減り、個人旅行へシフトしている。また外国人利用者の増加も含めて個人旅行者への対応も今後期待したい。また、今年度は他施設と共同でアート展を開催され、普段わらべ館を訪れない客層も見られた。今後も地域の方を含め、様々な層にわらべ館を知ってもらう取組を継続していただきたい。
		7年度		120,000人				
				400人				
				15,000千円				
組織改革 (組織刷新し、人材育成)	サービス向上に繋がる、組織・人材づくり	5年度		10回程度/年	全職員が参加する全体研修を5回実施するとともに、14の外部研修に職員を派遣した。	全体研修:5回 外部研修(派遣):14回	年2回の消防訓練のほか、外国人おもてなし講座や、ビジネス電話応対実践研修など様々な研修に参加した。引き続き職員の資質向上に取り組みたい。	実践に役立つ新たな研修も加わり、引き続きスキルアップに繋がる研修を行っていただきたい。
			・継続的な研修の実施により職員として必要な資質の維持向上に努めます。（接遇、消防、救急救命、イベント開発等）	2回/月	連携強化のためR5年10月に組織再編を実施し、それまでの1室1係制(事業推進室、総務)から、4係制(総務、イベント、童謡、おもちゃ)に移行した。	2回/月	事務効率の良い体制に見直しをされ、風通しの良い職場環境の整備に引き続き努めていきたい。	
			・運営委員会等の横断的会議を定期的に開催して組織内の連携を強化します。	若千名	契約更新により雇用期間が通算5年を超える非常勤職員より無期転換契約の申し入れがありR5年4月より無期転換を行った。	1名	引き続き処遇の改善に取り組みたい。	園等の動向を見極めつつ、引き続き職員の処遇改善に努めていきたい。
		6年度	・無期転換労働契約転換による雇用安定化	10回程度/年	全職員が参加する全体研修を5回、企画担当者研修を1回実施するとともに、17の外部研修に職員を派遣した。	全体研修:5回 企画研修:1回 外部研修(派遣):17回	定例の研修に加え、R7年度の開館30周年記念に向け県外コンクールを招いた企画立案を学ぶセミナー＆ワークショップを初開催し、刺激となった。	定例の研修だけではなく、新しい研修にも参加していること、昨年度よりも参加人数も増えていることは評価できる。
				2回/月	新たな指定管理期間が始まるのに合わせイベントの刷新と整理を図るため、全体を俯瞰して年間計画を立案、調整する企画会議を立ち上げた。	2回/月		企画会議を立ち上げられたことで早い段階で方針を事業に反映させることができたこと、新しい発想の事業も行えることができたことは効果があった。今後も継続していただきたい。
				若千名	人手不足を背景とした近年の労働環境の変化を反映し指定管理料が引き上げられたことから、主に若年層と非正規雇用を中心に処遇改善を行った。	0名	特に非常勤職員は、基本給の引き上げや賞与の支給率の改定により、年間人件費ベースで平均して一人当たり23%増となる大幅な処遇改善を実施し、士気の向上につながった。無期転換は対象者がなかった。	鳥取県・鳥取市から処遇改善の指定管理料について適切に使用いただいた。
				10回程度/年				
				2回/月				
		7年度		若千名				

視点	7年度目標 (期間内の 最終目標)	年度	実行計画		実績		分析、評価コメント（経営改善効果）	市担当課コメント	
			取組内容	目標値	取組状況	実績値			
公益増進 (顧客サービスの向上、社会貢献)	顧客満足度をアップ	5年度	・サービスの維持向上に努め、利用者アンケートの「満足」、「やや満足」の構成が90%以上となるよう取り組みます。 ・地元小学校の校外学習等の受け入れの際に、希望があれば当館職員による「鳥取の音楽家紹介」や「からくりの実演」等のわらべ館体験プログラムを提供し、展示だけでは得られない体験を提供します。 ・市内の障害福祉サービス事業所やシルバー人材センターの製品の調達等に協力します。	90%	672件のアンケート回答があった。5点満点で施設の満足度平均は4.57点、スタッフの対応評価は平均4.55点の高い評価を得た。	施設満足：91.0% 対応満足：89.2%	今後も利用満足度の維持、向上を図りたい。	昨年度に導入したオンラインアンケートによる回答数の増加に加え、満足度・スタッフ対応も高い評価を得ており、評価できる。	
				10校程度／年	社会科見学の再開とともに体験プログラムの申込みが大きく増え、年間で32回実施した。	32回開催	少人数（20～30人）での体験プログラムの実施は効果的な普及啓発につながるため、今後も取り組みを強化したい。	小学校等体験プログラムは、次世代育成の観点からも重要な事業であり、積極的に受け入れるとともに、新たなプログラムの検討など、事業のさらなる充実に努めていただきたい。	
				20万円以上／年	作業所へのイベントチラシの印刷発注や、シルバー人材センターへのイベント補助の委託など、10件969,105円を利用した。	969,105円	社会貢献にもつながるため引き続き利用したい。	今後も、積極的に社会貢献につながる取組に努めていただきたい。	
		6年度		90%	年間521件の回答があった利用者アンケートでは、5段階評価による施設評価の平均が☆4.54、スタッフ対応への満足度平均が☆4.47となるなど、引き続き高い評価を得た。	施設満足：88.7% 対応満足：85.4%	今後も利用満足度の維持、向上を図りたい。	昨年に引き続いてオンラインアンケートも継続され、回答数も多い。アンケート結果からも高い評価を得ている。	
				10校程度／年	小学校を中心に、申し込みのあった27回実施した。	27回開催	このほか、アウトリート事業として、普段コンサートに出かけられない子どもたちのため、児童発達支援・放課後デイサービスでの職員によるミニコンサートなども実施した。	申し込みも多く、目標数を上回った。申し込みに加え、アウトリーチ事業にも取組んでいた。多くの子どもたちによりわらべ館の事業を知っていただくことができた。	
				20万円以上／年	作業所へのイベントチラシの印刷発注や、シルバー人材センターへのイベント会場の見守り委託など、17件886,495円を利用した。	886,495円	社会貢献にもつながるため引き続き利用したい。	印刷発注など積極的に利用いただき、目標を大きく上回った。今後も継続いただきたい。	
		7年度		90%					
				10校程度／年					
				20万円以上／年					